

県民運動情報「ネットワーク」

“こころ豊かな美しい兵庫”をめざして

特集 「芸術文化でふるさとを元気にしよう」

編集発行 こころ豊かな美しい兵庫推進会議（兵庫県企画県民部県民生活課内）
〒650-8567 神戸市中央区下山手通 5-10-1 TEL 078-362-3136



愛称：ココロン

阪神北

「猪名川万葉の会」の活動について

猪名川万葉の会

代表 野々村 明子（猪名川町）

私たちの住んでいる猪名川町は、現存する最古の歌集「万葉集」に「猪名」という地名が入っている歌が五首もあるなど、貴重な歴史資産を有する地域です。そこで、私たちは、万葉集に親しむという共通のテーマをきっかけに、地域の皆様に古代ロマンの地としての「猪名川」を再認識していただくことを考え、会の発足二十一年目に就任の現講師岡本三千代先生と共に取り組んでいます。

今年度は、六月二十七日に猪名川町立六瀬（むつせ）中学校で万葉集の公開授業としてセミナーとうたがたりコンサートを開催し、三年生四十五人と



万葉の装束も紹介され進められた公開授業

○問い合わせ先
猪名川万葉の会 野々村
電話 0727-66-9313

西播磨

着物の良さを伝えたい

「コミュニティハウス青い家」

代表 小沼 経子（宍粟市）

着物に全く興味が無い若者や子どもたち。若い頃は着物で過ごしていたお年寄りたち。皆、今はなかなか着物を着て出かける機会はありません。しかし、着さえすればほとんどの人たちは鏡に映る自分の着物姿にうっとりされます。

そこで、たくさんの方々から頂戴した不要な着物を活用し、着付け、撮影会、お茶会などを行うことにしました。それにより、日本の着物の美しさや文化を考える機会が得られるとともに、使われていない着物という資源の再活用が知らず知らずのうちに実施されます。また、希望者を地域に呼び込むこ



着物のリユースで地域を元気にします

○問い合わせ先
コミュニティハウス青い家
電話 0790-62-3431

丹波

丹波の森国際音楽祭シュールティアーデたんば

たんば実行委員会（丹波市）

今年で二十二回目となる「丹波の森国際音楽祭シュールティアーデたんば」。人と自然と文化が調和した森の都「丹波」を創造する「丹波の森構想」に基づき、良質なクラシック音楽が身近にあるオーケストラの「ウィーソンの森」をモデルとして始めました。2カ月にわたりコンサートがリレーされ、丹波の全ての町で隅々まで音楽が届く事を期待し、駅前、神社、寺、小学校、社会福祉施設等で「街角コンサート」が行われます。

この音楽祭のプロデューサー、実行委員会も地域住民です。クラシック音楽の敷居の高さをなくし、音楽を通じ



オープニング・サロンコンサート（9月11日）

○問い合わせ先
実行委員会事務局
電話 0795-72-5170

今後は、地区内外の三世代が参加でき、多くの方が誇れる芸能を見つけて出し取り組んでいきます。



熱演する常田しらなみ五人組

○問い合わせ先
常田地区ふるさと守る会 岸本
電話 090-5040-5872

住吉神社例祭で「常田しらなみ五人組」を上演

常田地区ふるさと守る会
会長 岸本 耕一（加東市）

常田地区ふるさと守る会は、当地区の自治会・老人会・婦人会・子供会・太鼓会・消防団で編成し、地区の良き・有難さを認識し、村起こしの事業に取り組んでいます。

昨年は、歴史ある秋津住吉神社の例祭（秋祭り）に農村歌舞伎を上演し、秋津保育園児は『子宝歌舞伎』、盛年は『常田しらなみ五人組』を披露しました。特に盛年は、この芝居を通じ、先人たちが今日ある我が村を守り育ててきたその苦労と知恵、そしてかつて村に息づいていた心のつながりを見つめ直すことができました。

今回は、芸術文化を通じたふるさとづくりについて、映画の話題を中心に知事と語り合っていました。

【出演者】

映画監督 白羽 弥仁（神戸市灘区）

（一財）淡路島くうみ協会職員・淡路島フィルムオフィスコーディネーター 津守 会美（洲本市）

兵庫県知事 井戸 敏三

自己紹介

白羽 私は5歳まで芦屋で育ち、その後神戸の灘区に移り、高校時代から8ミリ映画を回していました。そのまま映画監督になりたくて、日本大学芸術学部に行き、その後は東京に在任していたのですが、二十九歳の時にオール阪神間ロケの作品「She's Rain」を、自分の青春時代の全てをつぎ込む思いで制作しました。去年、阪神・淡路大震災二十周年を記念して「神戸在住」という作品を神戸で撮影し、公開しました。

知事 「神戸在住」は、我々にとって励みになる映画でした。なぜかと言いますと、震災から二十年経つてくるとどうしても記憶が風化していくんですよ。阪神・淡路大震災を忘れないということが第一のスタートですから、そういう意味で「神戸在住」は、忘れないということ象徴していただいた、いい映画だったと思っています。

津守 私は淡路島に生まれ、高校まで淡路島で育ち、高校卒業後は数年大阪で、パソコンのインストラクターをしていました。その後、結婚することになり、相手が淡路島の方だったので、淡路島にまた戻ってくることになりました。

知事 パソコンインストラクターをされていた方が、どうしてフィルムオフィスのコーディネーターになられたんですか。

津守 淡路島フィルムオフィスは、元々は淡路青年会議所が立ち上げたのですが、淡路島くうみ協会の設立と同時に、フィルムオフィスの事務局を引き継ぐことになり、私が担当することになりました。以前は観光や広報の担当をしていました。今はフィルムオフィスの担当ですが、ロケ現場になる所は、観光地ではない所が多くて、最初は戸惑うことが多かったんです。

知事 ロケ地になるような所というのは普通の観光地とは違うんでしょうね。
津守 淡路島は海に囲まれていますので、まず海というのを第一に求められます。プラスして、海が見える高台、路地、坂道という所を求められますので、一般的な目線とは違うなと感じます。

映画監督の魅力

知事 映画監督に最初からなりたかったとおっしゃいましたが、映画監督の魅力とはどこにあるのでしょうか。



白羽 弥仁さん

白羽 最初の監督作品「She's Rain」に至るまでは、自分のイメージしていること、それから自分がそれまでたくさん見てきた映画の影響、神戸や阪神間の街並みを愛する気持ち、そういうストリートな気持ちを撮り取って映画にしたいという思いがありました。それから、二十数年経ち、もう四本映画をつくってききましたので、今は、自分がどう考えているかということより、社会で起きていることや歴史を自分はどう見るかということを考えたい時に、ぱあーっとイメージが膨らむと、それが映画にする動機になっていきます。映画監督というのは、一人が思ったことを大勢の力で映像にするという、他にはない作業、芸術です。ですから、できあがった時の喜びも含めて、たくさんの人に見てもらいたいという喜びが一番で、映画をつくる動機、監督をやる動機かもしれないですね。

知事 映画を撮られている時に、自分の気持ちとぴったりマッチする場合と、うまい具合にシンクロしない場合とがあるのではないですか。

白羽 天候やお金、色々なその時々々の条件がありますので、監督というのはその場でジャッジしないといけない。何をどう描くかというのはもちろん大事ですが、ここまでやるか、切り上げるか、もう一回やるかというジャッジを求められることが多いです。思い描いている世界にどう近づけていくか常に葛藤があって、一つのおもしろさであると同時に難しさでもありますね。

映画に必要な不可欠なロケ地探し

知事 ロケ地は大事ですが、こういうロケ地がないかと要望された時、どうやって候補を探されるのですか。

津守 淡路島が舞台になる作品は本当に少ないのですが、例えばメインを神戸で撮影する時に、神戸にはない古い街並みや昭和の街並みがないかと問合せがありますので、それに見合う候補地を一つではなく、二つ三つ提案し、下見に来ていただく形で進めています。**知事** 洲本の街並みは、ある意味ですごく古い、しかしロマンチックな感じのある街並みですね。**津守** 洲本にも古い所が残っているんですけど、淡路島の中では、実は、北の淡路市あたりでの撮影が多いです。高台から海が見えて、坂道や石垣が残っている所があります。昔の風景の撮影に使っていただいています。

知事 西宮市の武庫川女子大学甲子園会館や神戸市内の萌黄の館等色々あります。私が大好きなのは、「ラストサムライ」の舞台、書寫山園教寺です。**白羽** あそこも、映画のロケ地になり、人がたくさん来るようになりますね。



書寫山園教寺

知事 元々フィルムコミッション業務をやるつもりで、くにうみ協会やその前の淡路花博事務所にいらっしゃった訳ではないですか、最初は戸惑いがあつたのではないですか。

津守 そうですね。今でこそ女性のスタッフも制作の中に増えてきていると思うんですけど、やはり男性の世界です。**白羽** 映画のスタッフ、監督もそうですけど、よく言つとワイルドで、悪く言つとちょっと荒くれな人が多いです。監督としては、私みたいなタイプは珍しい(笑)。「こういう所見つけて来い」みたいなことで、上からガツと来られます。

知事 それは戸惑つたでしょうね。**津守** 最初は戸惑いました。ちょっと乙女な所もございましたので・・・(笑)。今は、スタッフの方に車と一緒に乗っていただけて、次に繋げるために、車中ではこういう所を探しているけども、実は他にもこういう所を探しているというお話を聞いて、コミュニケーションを取るように常日頃から心がけています。



津守 会美さん

知事 ロケ地は、ロケハンに入つたいただいて、地元で活動を展開していただくだけではなく、話題になると、ここで映画が撮られたんだということ観光価値が出てきますね。

映画で淡路島を盛り上げる

知事 ロケの相談は来ていますか。**津守** ひょうごロケ支援NPOから紹介いただいて、この冬にも夢舞台の国際会議場で撮影することが決まっています。それ以外にドラマとしては、昨日(十月三日)から放送の朝ドラ「へっぴんさん」があります。神戸が舞台の作品ですが、実は昔の風景を淡路島で撮影しています。

知事 ロケ地というのは、舞台とか、衣装みたいに化けられるんですね。淡路を舞台にした場面をたくさん監督に入れてもらったらどうですか。

白羽 淡路島出身の俳優さんは多くて古くは、渡哲也さん、最近は朝比奈彩ちゃんというアイドルもいるので、そういう方たちに淡路島に帰ってきてもらって、オール淡路島の映画を撮つたらどうかと話をしていたんです。**知事** 淡路島と言えば、渋い俳優さんがいらつしゃいましたよね。

津守 笹野高史さんですね。笹野さん主演の淡路島を舞台にした作品「あつたまら銭湯」を先日(九月十七〜十九日)「うみぞら映画祭」で上映させていただきました。ありがとうございます。**知事** 「うみぞら映画祭」は、おもしろいイベントですよ。海の上のスクリーンに陸上から映して、観客は寝そべつたりして見るんですよ。定着させるというイベントですね。

淡路島オールロケで盛り上がった映画「種まく旅人〜くにうみの郷〜」

知事 フィルムコミッション業務との関わりで、印象に残っている映画を挙げるのとどうでしょうか。

津守 昨年公開の淡路島を舞台にした「種まく旅人〜くにうみの郷〜」です。農業と漁業の従事者をテーマにした、淡路島オールロケの映画で、島民の方もエキストラに三百人程参加していただき、全島で盛り上がった作品です。**知事** エキストラでもいいからフィルムに登場できるのは、インセンティブになりますよね。

白羽 よくそう言われるのですが、いざ現場でもう一回、もう一回と夜中まで撮影をしていると「こんなに大変なんですか」と言つて、皆さんもうぐつたりされます。**知事** じゃあ、あんまり気軽に手をあげられませんか。

白羽 いえいえ、体験する分にはおもしろいです。映画ってこうやってつくるとだということを知ると、他の映画を見る時でも、「あー同じように撮っているんだ」と思えますので、映画の見た方が格段に違つと思えます。

知事 「種まく旅人」は、淡路島の漁業と農業、玉ねぎも含めて、担い手を主人公にした映画で、随分、淡路島のPRしてくれました。だから、淡路島の子どもたちに、見てもらつたんですね。フィルムオフィスに投書等ありましたか。

津守 感想文を学校からいただきました。自分の親が農業や漁業をしているけれど、実際にこんな仕事をしているんだ、玉ねぎを定植して収穫するまでにはすごく時間がかかるんだということ

今後の抱負

白羽 まずは、来年2月公開の私の新しい映画「ママ、ごはんまだ？」をたくさんの人に見ていただきたいです。先日、この作品をスペインの国際映画祭で上映したところ、大変好評でした。自分たちがつくっている映画が世界でちゃんと受け入れられるんだと思いたしたので、それはこれから一番意識したいと思つています。国境を越えて日本映画を見てもらう、それはひいては日本という国を理解してもらつたことの一助になると思うので、そういう作品をつくっていききたいと思つています。

地域団体の紹介

神戸

映画で神戸の魅力・映像保存活動

神戸ドキュメンタリー映画祭実行委員会
委員長 金 千秋(長田区)

私たちは地域の記録を掘り起こして発信する「神戸ドキュメンタリー映画祭」を毎年十月に開催しており、今年で八回目を迎えます。毎年特集テーマを決め、埋もれた作品を上演するほか、様々な活動も行っています。

『神戸の映画「大探索」では、時代やジャンルを超えて神戸が登場する映画の発掘、調査、公開を行い、神戸の魅力を発信しています。

「神戸映像アーカイブプロジェクト」では、神戸映画資料館のフィルムや資料を活用し、市民と保存活動を行っています。



持ち寄り上映「ホームムービーの日」

〇問い合わせ先
神戸映画資料館
電話 078-754-8039

とが、映画を見て分かつたとの感想もありました。**知事** 意外と農家の子ども達が手伝っていないんですね。親御さんが手伝ってないんですね。多自然地域で育っているという機会を活かしきれない。そういう意味で子育てのあり方みたいなのを考え直してもらわないといけないですね。



かいほりをするエキストラの方々



おもてなしする地域の人々

「神戸在住」に込めた思い、今後の作品展望

知事 「神戸在住」で、震災後二十年の神戸の街を訪ねていくことを主人公に託して、どういうメッセージを発信されようと思ったのでしょうか。

白羽 主人公が震災を知らない二十歳の女の子なので、知らない子たちにとって、震災がどうであったかと感じてもらいたかった。一番は命の問題ですね。昨日、今日、一緒にご飯を食べた人が突然、震災によって、いなくなる。これはどんな災害にも共通することです。そのことを本人がどう捉



「神戸在住」撮影風景